

人妻 弥英子

被虐の浣腸接待

◆主な登場人物

・三崎弥英子[27 歳]

やくざの黒崎に、借金を抱えた夫を人質にとられ、
浣腸愛奴として仕込まれた美しき人妻。

元は中学の女教師。

連日連夜、スカトロ趣味の変態客相手に、嗚咽しながらも
尻を差し出していく。

・奥寺美樹[22 歳]

黒崎の企業舎弟が経営するイタリアンレストランで働いて
いた気の強い女子大生。客として現れた組員に因縁を付け
られて調教をされることになった。浣腸愛奴として、政治
家や財界人の相手に駆り出されている。

・芹沢遥 [26 歳]

眩いほどの美人。

浣腸愛奴で生粋のマゾヒストであることから、

残忍なサディスト客の拷問じみた責めにも対応できる。

・黒崎忠利

広域指定暴力団の幹部。

麻薬と人身売買を生業としている。

女を暴力で痛めつけることが趣味。

・張肆儒^{よんじゅ}

中国マフィアで麻薬のバイヤー。

肛門にしか興味が無く、強力な浣腸液を注入し、女を長時間我慢させ、苦しんでいる姿をみるのが好物。

◆もくじ

【プロローグ】

【奥寺美樹の浣腸接待】

1. 前戯の浣腸
2. 強力な混合浣腸
3. 仕置き

【三崎弥英子の浣腸接待】

1. ブルセラ浣腸
2. 便意の我慢は全力疾走で
3. 恥辱のお漏らしプレイ

【三崎弥英子、芹沢遥の浣腸接待】

1. 浣腸踊り(エネマダンス)
2. 覚せい剤を打たれる美女ふたり
3. 強烈な鞭打ちと浣腸排便

【被虐の浣腸接待】

1. 女汁ドリンク
2. 懇願 理不尽な浣腸
3. 最後の抵抗

【プロローグ】

麻薬の取引で日本に来ている中国マフィアの張。

取引後は、やくざお抱えの料亭奥にあるいかがわしいはなれ「女殺庵」にて、美しき人妻浣腸愛奴「三崎弥英子」から浣腸接待を受けていた。



美しすぎる弥英子の美貌と、劣情を誘うやくざ仕込みの官能接待。肛虐家である張は大いに昂り、さまざまな残忍浣虐リクエストを要求。

「いい女だな、あんた。胴震いがするヨ」

「お手柔らかにお願いしますわ……」

夜が白むまで弥英子は悲鳴をあげ七転八倒。残忍な肛虐のすえに瀕死の重態となり、生死の境をさ迷った。



明け方。弥英子の悲鳴が聞こえなくなったことを怪しんだ見張りのやくざふたりが、中の様子を見に駆けつける。

そこには白目を剥いて痙攣している弥英子。死体と見まごうようなそれに覆いかぶさる幽鬼のような張の姿。

手には浣腸器。呆れたことに、まだ責め続けている。

「——張さん、すいやせんね。
弥英子のやつ、どうも参っちまって。
今から別の女を用意しやすんで……」

「……ほう、どんな女だ」

「へえ、弥英子に負けねえくらいの別嬪でさあ。人気もありますぜ。昨日なんて政治家の相手をさせましたから」

「……ほう、ほう」

どうにか納得した様子の張。

弥英子は病院に運ばれ、
かわりに接待役として差し出された女は……。

【奥寺美樹の浣腸接待】 ～前戯の浣腸～

「うちの企業舎弟が経営するイタリアンレストランで働いていた女です」

「どうです、政治家にも相手させている上玉ですぜ。
ほら、張さんに挨拶しねえか美樹」
——ペシャリ！

「……御相手を務めさせていただきます、奥寺美樹と申します。本日はどうか飽きるまで美樹のお尻を……」

尻を突き出して、なよなよとくねらした美樹。

形が良い尻、縋れた腹を浣腸で締め上げてみたい。
張の欲情が込みあがる。

「ほう、お前もなかなかいい女だな。どれ……」

「あッ……ううむ」

尻に手をのぼし、やわやわ揉み、撫で、ゆさぶった。

「こんないい女がいるなら、
弥英子と尻を並べて浣腸してやりたかったぜ、ナァ」

荒々しく撫でながら、やくざに苦言を呈す。

「——それじゃ、俺達はこれで失礼しやす。
見張りは代わりの者と交代しますんで、何かあったらそいつに言ってくだせえ」

「存分にお楽しみください」

やくざふたりが出ていくと、張は嬉しそうに鼻の下を伸ばし、早速浣腸液の準備にとりかかる。

薬液を作っている最中も、張の股間はギンギンに脈を打ちちまきればかりだ。

「ウウフ……、男性自身がお元気そうですわね。
大層な量の射精をされたと聞いておりましたけれど……」

「お前が浣腸に苦しむ姿を想像しただけでこの様^{ザマ}ダ」

「……お待ちしておりますわ」

「ふふ、それじゃグリセリン 50%からいくとするか。
奥寺美樹、尻を向けろ……。
覚悟ができたなら尻割って肛門ミセやがれ」

「……はい。美樹はお浣腸が大好きですわ。その大きなガラス製お注射で、どうぞタププリと注ぎ込んでください」

「ヘッヘ、その余裕がいつまで続くかも愉しみだヨ」

チュウウ〜〜〜……ッ！

ちゅる、ズッチューーーーー……。

ちゅる…… チュウウウーーーーー。

「あ、あ、あ、あ、あ、あはぁあ〜……」
浣腸が始まると、美樹は喉をならして喘いだ。

張は嬉しそうに顔を崩し、美樹が煩悶する様子を見ながら、シリンダーを押す手に力を加えていく。

「どうだ奥寺美樹。……そら、浣腸ッ！」 「あっ！」



チュウウ〜〜〜……ッ！

「……ううむッ！……も……もっとお！」

ぎゅる、ぎゅるる。

ぎゅる〜……。ぎゅるるる……。

「もっと欲しいか、好きな尻め」 チュウウ〜〜〜……ッ！

「はい、沢山お浣腸なさって……ううむ。うむ」
ぎゅるる……ぎゅるるる…… 「うっく……！」

——サンプルはここまでです。



ここから先は
「本編」でお楽しみください。